

第2回
小中をつなぐ
ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では6回に分け、小学校と中学校の学びをどうつないだらよいか、そのヒントを述べていきたいと思います。今回は、小学校で学んだことをどう生かすかについて、ご紹介します。

小中連携のポイント

①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ

POINT 1 「あっ、習ったよこれ！」
(学んだことをもう一度繰り返す)

POINT 2 「いろいろな場面で使えるんだね！」
(中学校での学びとしてさらに使う場面を広げる)

太田 洋
おわた・ひろし
東京家政大学教授
東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。
東京都の中学校、東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、
駒沢女子大学教授を経て現職。
中学校英語教科書
『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の
編集委員を務める。

第1回では、小中連携の大事なポイントとして、「①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」、「③CAN-DOでつなぐ」の三つを挙げました。第2回となる今回は、「①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」について、詳しくご説明します。

1. 「あっ、習ったよこれ！」

「何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」のために、まず、小学校で学んだことを中学校でもう一度繰り返す、生徒たちに「あっ、習ったよこれ！」と思い出させることが大事です。そうすることで、生徒たちは、「小学校で学んだことが中学校でも生きる」ことに気づき、「できる」という有能感をもつことができます。

今回は、「I like ~.」「Do you ~?」を例に考えてみましょう。まずは、小学校で習った場面を思い出させます。『Hi, friends! 1』のLesson 4には、「好きなものを伝えよう」という、好き嫌いを予想してインタビューするという題材(“Do you like spiders?” “Do you like milk?”)があります。

中学校ではそれを生かし、先生が自己紹介をする場面で、「先生の好きなものや嫌いなものを知ろう」という活動をするとういでしょう。先生は、自分の好きなもの、嫌いなものを絵を使いながら話します(生徒に“Do you like ~?”を使って質問させてもいいでしょう)。次に、先生が生徒に、好きなものや嫌いなものを尋ねます(さらに「Who am I? クイズ」をしてもいいでしょう)。

2. 「いろいろな場面で使えるんだね！」

小学校で学んだことを思い出させた後は、中学校での学びとして、教科書の本文や「Try



It!」の活動を通して、同じ表現がいろいろな場面で使えることを感じさせます。中学校教科書『COLUMBUS 21』(光村図書)の1年Unit 4 P48-49(※)を例にみてみましょう。まず、P48の本文の会話を聞かせます。そして、教科書の絵に吹き出しを書き「どんな場面ですか?」、「ミンホはティナに何と尋ねていますか?」、「なぜ尋ねていますか?」などと質問します。すると、生徒たちは「新しい友達と仲よくなるために、共通点を探そうとしている」、「自分の好きなものを話題にしている」などと答えます。

次に、P49の「Try It!」に設定されている、「来日した人気歌手へのインタビューの場面」でのリスニング活動を活用しましょう。初めて

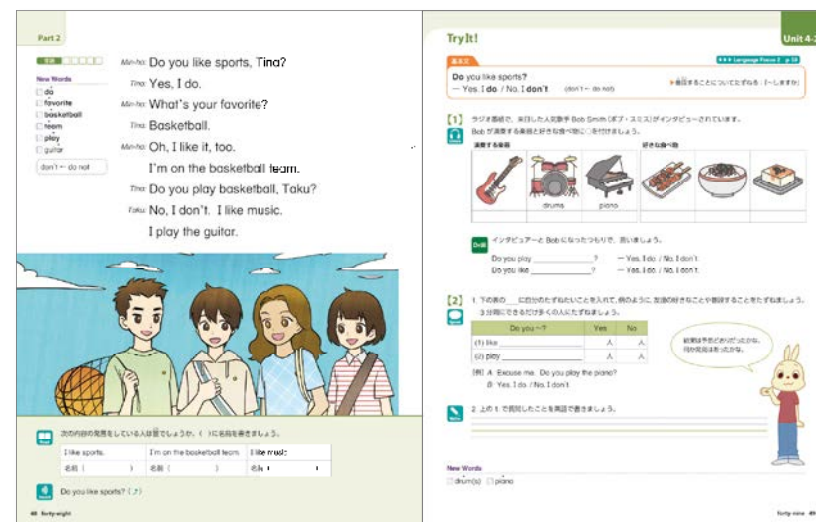
会う人にインタビューする場面でも、“Do you ~?”という表現が使えることがわかります。

このように教科書本文や「Try It!」を使って、小学校で習ってきた表現が、さまざまな場面で使われることを学びます。さらに、このリスニングの場面を生かし、「ALTの先生のことを知るためにインタビューしよう」というコミュニケーション活動をすることもできます。生徒が、ALTに“Do you ~?”を使っていろいろ尋ねる活動です。ここで、“Do you ~?”で使われる語(動詞や名詞)も、小学校で学んだことを思い出させるとよいでしょう。

* * *

生徒たちに「あっ、習ったよこれ！」と、小学校で学んだことを思い出させ、さらに、その表現を、中学校の題材を使って「いろいろな場面で使えるんだね！」と、感じさせること。この二つが今回のポイントです。

次号では、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」について、詳しくご紹介します。



※『COLUMBUS 21』(光村図書), 1年Unit 4 P48-49